



## 岡本太郎は色褪せない

1972年に放映されたとする架空の設定で「岡本太郎式特撮活劇TAROMAN」というTV番組が今年2022年に制作された。いわゆるウルトラマンのパロディである。

この主題歌の呼びかける意味が深い。

べらぼうな夢はあるか？

でたらめをやってごらん！

自分の中に毒を持って！

自分の運命（さだめ）に楯を突け！

そして、表現の心構えとして

上手くあるな

綺麗であるな

心地良くあるな

と主題歌は続く。

岡本太郎芸術を知る人たちにはたまらなく愉快的なTV番組だった。

いわゆる教育委員会が理想とする、いわゆる優秀な美術教師が「教える」美術教育とは真逆な内容のようにも思われるが、逆もまた真実であり、美術なのである。

それを証拠に、岡本太郎の人気は色褪せない。

そればかりか、岡本太郎芸術は近年益々輝いてきている。

私もまた、感覚的に表現の心の底を流れる「自由」を求めて、岡本太郎の名言に大いに共感を覚える。

彼とは全く方向性の異なる作風の私だが、今月のレッスンのように、彼の言葉を私なりに咀嚼したものでありたい。